

平成27年度事業報告

I. 研究発表会, 講演会等の開催

1. 日本心理学会第79回大会

期日 平成27年 9月22日(火) —24日(木)

会場 名古屋国際会議場

主催校 名古屋大学(大会会長 川口 潤教授)

2. 公開シンポジウム

(1) “社会のための心理学” シリーズ

(a) コミュニケーションの暴走——いじめ・DV・虐待——(司法現場における心理学)

第1回 11月22日(日)(東京)

第2回 12月20日(日)(京都)

(b) 医療における心理学の広がりを考える(医療現場における心理学)

第1回 11月7日(土)(大阪)

第2回 11月23日(月)(富山)

(c) 超高齢社会と自動車——認知心理学から考えるクルマ社会の今と未来——

第1回 9月22日(火)(名古屋・第79回大会時)

第2回 10月10日(土)(東京)

(d) 溺れる心——依存症を考える——<全2回(東京・東北または北海道)>

2016年度に実施

(2) “科学としての心理学” シリーズ

(a) 心理学の“神話”をめぐる冒険(2014年度継続)

第1回 8月29日(土)(福岡)

第2回 9月6日(日)(京都)

(b) 五感の不思議を探る——見る・聴く・触れるを科学する——

第1回 10月3日(土)(東京)

第2回 2016年3月5日(土)(仙台)

(c) 常識を超える心理学・なぞる心理学

第1回 10月3日(土)(京都)

第2回 2016年1月23日(土)(東京)

(d) アニメの心理学

第1回 7月26日(日)(札幌)

第2回 10月4日(日)(東京・認定心理士資格25周年記念式典開催)

(3) 高校生のための心理学講座

全国14か所(北海道, 東北, 関東Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 中部Ⅰ・Ⅱ, 関西Ⅰ・Ⅱ,

中国・四国Ⅰ・Ⅱ, 九州・沖縄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)

3. 第79回大会時日本心理学会企画シンポジウム等

(1) ICP2016関連シンポジウム等

(a) 学会での初めての英語オーラル発表

(b) 人間の心の固有性

(c) 融合的なこころの科学について考える

(2) 機関誌等編集委員会企画講習会

(a) 英語論文投稿への道(6)

(3) 認定心理士25周年記念シンポジウム

(a) 認定心理士の現況

- (4) 教育研究委員会博物館小委員会企画チュートリアル・ワークショップ
 - (a) “秘すれば花”・科学の感動を共有するためのコツ
- (5) 東日本大震災復興支援特別委員会企画シンポジウム
 - (a) 災害復興と心理学
- (6) 若手の会企画シンポジウム
 - (a) 広がる心理学——学際性の先端領域と新しいキャリア形成の枠組み——
- (7) 日中韓合同シンポジウム
 - (a) 日中韓三か国シンポジウム——いじめの諸相——
- (8) その他企画
 - (a) これからの“脳と心の科学教育”を考える——小・中学生を対象とした心理学実験ワークショップを通して——
 - (b) 二人で同じ花を見るとなぜ美しいか？——“共視”の実験心理学，発達心理学，精神分析学——
 - (c) 発達・感情・幸福感——比較文化心理学の最前線——

II. 学会誌，研究報告書及びその他の資料の刊行

1. “心理学研究” 第86巻第1号—第6号を刊行した。
2. “Japanese Psychological Research” Vol. 57, No. 2-No. 4 & Vol. 58, No. 1を刊行した。
3. “心理学ワールド” 第69号—第72号を刊行した。
4. “心理学叢書” の刊行
 - “高校生のための心理学講座——こころの不思議を解き明かそう——” (内田伸子・板倉昭二編) を刊行した。

III. 研究及び調査の実施

1. 大学の心理学教育に関する調査・研究
 - 平成28年度継続
2. 社会が求める心理学教育のあり方に関する調査
 - 平成28年度継続
3. 心理学卒業・修了者の実態調査
 - 平成28年度継続
4. 会員及び認定心理士への調査
 - 会員に対するアンケート調査を，JPAマイページで実施した。

IV. 国内の学術団体との学術研究協力

1. 日本学術会議
 - 公開シンポジウム“コミュニケーションの暴走——いじめ・DV・虐待——”を，日本学術会議 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会，及び心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会と共催した。
 - 日本学術会議総合工学委員会主催“安全工学シンポジウム2016”及び“原子力総合シンポジウム2016”を共催した。
 - 日本学術会議 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会主催“人間理解を支える心理学としての社会貢献——公認心理師資格を考える——”を後援した。

2. 日本心理学諸学会連合
本会から3名、理事として参加している。
会費および認定心理士承認料を支払った。
3. 日本脳科学関連学会連合
本会から3名、評議員として参加している。
会費を支払った。
4. 日本心理研修センター
“公認心理師試験・登録機関受託及び新たな研修事業等のための準備寄付金”を支払った。

V. 国際的な学術研究協力

1. 国際心理科学連合
分担金を支払った。
また、ICP2016開催に向けて連絡協力を行った。
2. 国際テスト委員会
分担金を支払った。
3. 各国心理学会との研究協力
英国心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
スウェーデン心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
ロシア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
南アフリカ心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
韓国心理学会 協力協定に基づき、日中韓三か国シンポジウム——いじめの諸相——を行った。
中国心理学会 協力協定に基づき、日中韓三か国シンポジウム——いじめの諸相——を行った。
台湾心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
インドネシア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
フィリピン心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
マレーシア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
インド心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
アメリカ心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。
オーストラリア心理学会 協力協定に基づき、連絡協力を行った。

VI. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1. 公益社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考・授与
平成26年度刊行の“心理学研究”および“Japanese Psychological Research”（特集号を除く）掲載の原著論文・研究資料のうちから選考委員会において授賞論文を決定した。平成27年度会員集会時に授与式を行った。

<優秀論文賞>

- (a) 社会的ジレンマ状況で非協力をもたらす監視罰則——ゲーミングでの例証——
著者 北梶 陽子・大沼 進（北海道大学）
掲載 心理学研究第85巻第1号
- (b) Benefit findingが発達障害児・者の母親の心理的ストレス反応に与える効果
著者 山根 隆宏（奈良女子大学）
掲載 心理学研究第85巻第4号
- (c) 未来は君の右手にある——身体化された時間概念——
著者 佐藤 徳（富山大学）
掲載 心理学研究第85巻第4号

(d) 企業組織において高業績を導くチーム・プロセスの解明

著者 縄田 健悟・山口 裕幸 (九州大学)・波多野 徹・青島 未佳 (株式会社産学連携機構九州)

掲載 心理学研究第85巻第6号

(e) You were always on my mind: The importance of “significant others” in the attenuation of retrieval-induced forgetting in Japan

著者 内田 由紀子 (京都大学)・上野 泰治 (University of York)・宮本 百合 (University of Wisconsin-Madison)

掲載 Japanese Psychological Research Vol. 56 No. 3

2. 公益社団法人日本心理学会国際賞の選考・授与

国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考した。平成27年度会員集会時に授与式を行った。

<特別賞>

北山 忍 (ミシガン大学心理学部)

<功労賞>

春木 豊 (早稲田大学名誉教授)

荻阪 直行 (京都大学名誉教授)

<奨励賞>

阿部 修士 (京都大学 こころの未来研究センター)

北田 亮 (自然科学研究機構生理学研究所)

山本 真也 (神戸大学大学院国際文化学研究科)

3. 公益社団法人日本心理学会学術大会優秀発表賞の選考・授与

平成27年度会員集会において、第78回大会時の特別優秀発表賞授与式を行った。

第79回大会において、全ポスター発表を対象に、大会参加者全員を審査者として、学術大会優秀発表賞の投票を行い、11件に特別優秀発表賞、27件に優秀発表賞を授賞することを決定した。

平成28年度会員集会で授賞式を行う。

4. 公益社団法人日本心理学会心理学ミュージアム作品賞の選考・授与

心理学ミュージアム展示室に掲載する作品を公募し、応募作品から優秀作品賞授賞作品を選考した。平成27年度会員集会時に授与式を行った。

<最優秀作品賞>

人はなぜ被害者を責めるのか？——公正世界仮説がもたらすもの——

著者 村山 綾 (日本学術振興会・関西学院大学)

<優秀作品賞>

見えない気持ちを炙り出す——IAT (潜在連合テスト) の仕組み——

著者 藤井 勉 (Sungshin Women's University)・澤田 匡人 (宇都宮大学)

5. 研究集会等への支援

26件の研究会へ助成を行った。

6. 国際会議参加者への旅費補助

21名の国際会議参加者への旅費補助を行った。

7. 表彰制度整備

表彰制度について検討した。

VII. 資格認定及び研修

1. 公益社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与

平成28年3月31日現在、総件数3,546件を審査し、3,369名を合格、41名を不合格、136名を保留

とした。

現在までに必要な手続を経て資格を取得した者は3,212名であった。

2. 公益社団法人日本心理学会認定心理士研修会

平成24年度より、I-2. 公開シンポジウム・公開講演会等と連動して多くの領域をカバーする研修とすることとした。

3. 資格申請手引きの検討と修正

資格申請手引きについて、電子申請の実施に伴う内容を検討した。

4. 認定心理士データベースの構築

認定心理士資格審査のためのデータベースの構築を進めた。

5. 心理調査士の新設検討

“心理調査士”として検討してきた資格について、“認定心理士（心理調査）”として新設することとした。

VIII. その他目的を達成するために必要な事業

1. 心理学の普及・啓発のための広報活動

“心理学ミュージアム”に作品を掲載した。

“サイエンスフェスティバル in る・く・る 2015（青少年のための科学の祭典 第19回静岡大会）”（2015年8月15—16日、静岡科学館る・く・る）に出展した。

2. 心理学の歴史的資料の保存・調査

古典的実験機器類の調査・撮影を行い、“心理学ミュージアム”に掲載した。

名誉・終身会員へのオーラル・ヒストリー聞き取りを行った。

3. 倫理規程の継続的な検討・倫理問題の解決

倫理委員会において、所管事項を審議した。

4. 東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究の助成

第5回“東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究”を公募し、4件に助成を行った。

5. 理事長・常務理事選挙の実施

理事長・常務理事選挙を実施した。

6. その他

(1) 学会90周年、認定心理士資格25周年

日本心理学会90周年記念事業、及び認定心理士25周年記念事業として、本年度の公開シンポジウムを行った。

日本心理学会90周年記念事業として、歴史的資料の保存・調査、及び東日本大震災からの復興のための実践活動及び研究の助成を行った。

認定心理士25周年記念事業として、認定心理士資格25周年記念式典及び記念シンポジウム、及び日本心理研修センターへの“公認心理師試験・登録機関受託及び新たな研修事業等のための準備寄付金”の支払を行った。

その他、記念事業の検討を行った。

(2) 組織の体系化

学会の組織について検討を行い、“認定心理士の会”発足準備を行った。また、“若手の会”の会則を制定した。

(3) 公認心理師に係るワーキンググループ

公認心理師に係るワーキンググループを設置し、検討を行った。

以上